

日時 : 2011年7月22日(金) 13:00 ~ 17:00
場所 : 塗料報知新聞社 会議室
出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、杉山博英(アネスト岩田株)、内山貴識(東和酵素株)
早川政男(第一塗装工業株)、木下稔夫((地独)東京都立産業技術研究センター)、
高橋大(株三王)、小泉栄(株小泉塗装工業所)、島田哲也(旭サナック株)
アドバイザー:坂井秀也(日本工業塗装協同組合連合会技術顧問)、
平野克己(日本塗装機械工業会(CEMA))、倉持保雄(日本工業塗装協同組合連合会)、
事務局:有馬弘純(塗料報知新聞社)
オブザーバー:渡辺圭祐(関東経済産業局)

13名 敬称略

***** 議 題 *****

1. サポイン 21 部会

(1) 関東経済産業局 渡辺圭祐氏より感想を頂戴した。

塗装に関する技術や研究テーマの多さを今回のセミナーアンケートやこれまでの調査で実感した。

塗装に関連する業界としても塗装の研究や開発への強い支援や取組みがあることも分かった。

これらを受け、国としてもサポートが必要と認識が高められた。

(2) 今後の進捗、日程

- ① サポイン指定に向け作成した塗装技術を紹介する資料は、経済産業省化学課にて理解を深め、その後中小企業庁へ説明するルートで展開していくとのこと。
- ② 化学課の担当者が代わるため、再度日程を調整して説明に伺う。

(3) サポインの支援について

- ① 現状 20 分野におけるサポインの支援を受けることについて渡辺圭祐氏より説明を頂戴した。
ものづくりの支援に向けては、企業レベルの取組みだけでは難しいのが実情。
支援を受ける技術テーマの内容から手続き、書類の書き方や申請方法、研究開発時の進め方や経費管理、研究後の運用などに従事しなければならない。このため、行政では支援機関として、申請や経費管理を代行する大学や事業管理法などを紹介している。これらにかかる経費も支援費用の対象となるので有効活用してもらいたい。
- ② 工業塗装高度化協議会として何ができるか
サポインの21番目に塗装業が指定された場合、どこに課題があるのか、何をすべきなのか等検討する内容が多くあるので、事例を作り上げることが一つの道しるべになるのではないかと。この場合、産総研の小林氏と協力、連携し課題などを抽出し、情報発信することを想定して協力関係を今のうちに深めておくことが大切として今後の分科会にて協議していくこととした。
また、指定された場合の当会の役目としては、上記①の行政支援窓口への案内など紹介を含めてサポートしていく体制を整えることが必要とし協議していく。

(4) その他

地方の(独)産業技術研究センターの集会在り、サポイン活動の説明及び現在までの経過など木下氏より報告を行い、あらかじめ周知を図る提案が示され分科会にて承認された。

2. 塗装と環境セミナー

(1) アンケート

セミナーのアンケート結果から参加者の業態や意見、当会に対する期待、また当会の認知度などの分析結果と、参加者 150 名を超えたセミナーの成功を東和酵素 内山氏より報告された。

① 今後セミナーで取り上げて欲しいテーマ

- ・電力削減、省電力技術などは、昨今の国内状況に関するところからきている。
 - ・海外における粉体塗装状況、塗装技術、環境規制、生産海外移転など海外に関するテーマが多いことは生産拠点が海外へシフトすることの現れのように捉えられた。
 - ・サポイン21採択事例、環境設備などの補助金という回答には今回の講演の反響がうかがえる。
 - ・VOC 削減とその装置、脱臭、ブース、スラッジ処理の無薬化など環境対応を望む声も多い。
 - ・小規模(バッチ等)ブースと塗装ライン(自動車メーカー等を除く)規模に分けて、セミナーを開催してほしい
 - ・新技術、革新的な塗装方法(コスト・品質)、塗装最新技術、塗装処理技術など技術革新を望む声がある。
- これについては、CEMA 塗装技術シンポジウムにて取り上げていく。
など今後の分科会活動テーマの参考として内容を整理した。

② 塗装業がサポイン指定となった場合に研究開発したいテーマ

【塗膜成形・生成】

- ・塗膜形成プロセスの解明(数値)と高性能化シミュレーション
- ・エアー、エアレス以外での工業塗装(仕上性)
- ・Φ 1mmの内面塗装技術、測定技術、可視化、バキューム等

【設備・機器】

- ・プラスチックなどの樹脂への粉体塗装の開発
- ・工程数が少なく高品質な塗料の開発、無人で塗装完成する技術、作業性向上
- ・医療機器に対する対薬品、対防菌など医療関連に対する塗膜設計、技術開発
- ・ゴミ対策、空調、清掃システム、廃塗料の有効利用、システムハンガー(治具)製作
- ・効率100%の塗装ガンの開発、スプレー以外の塗装方法
- ・超短工程タイム塗装(数分で塗装、硬化完了、コンパクト設備)
- ・省人化、ロボットの導入促進など(いろんなワーク形状に対応できる)
- ・炉、ブースを必要としない粉体塗料、設備
- ・塗装後廃棄物の再利用
- ・焼付乾燥温度の低温化(半減化)
- ・電着塗装の容易な色替え
- ・比重の重い顔料塗料の自動塗装
- ・網置き塗装の異ブツ削減

【塗料】

- ・絶対にさびない塗装、超薄膜で塩水噴霧(2000時間以上) ・インクジェット3D 塗装
- ・溶剤の希釈量、少量化(溶剤使用量の少量化) ・抗ウイルス塗膜
- ・塗装、再剥離による成型樹脂リユース技術 ・高輝度塗装
- ・現場で塗装できる粉体塗料の開発

(2) 義援金・セミナー費用

- ・セミナー収入の10%(5万円)程度を義援金に充てることを再度承認された。送り先は、9/30 までに被災した塗装企業(2社)へ直送する。
- ・収支残金は工業塗装高度化協議会として周知活動やその運営費などに充てること決定。

(3) 周知活動

九州工塗連の設立がほぼ決まり、発足式において工業塗装高度化協議会主催で行われたこれまでのセミナー講演の幾つかを抜粋し行うことが承認された。九州工塗連は(株)花菱塗装技研工業の稲田社長が発起人

となり、4社が賛同し設立に向け工塗連本体がサポート。

発足式は10月ぐらいを予定としている。7/26 に窪井氏、内山氏にて進捗や設立式典等の打合せを行うとのことで、次回会合にて報告して頂く。

3. その他

① 今後の活動テーマ

塗装現場に即した改善改良や環境負荷低減につなげる活動とすることが前提。

分科会メンバーだけでなく業界としての意見なども収集して検討していく。

・8月の工塗連理事会にて当会の活動テーマ案に関する意見などを収集する。

・次回までに分科会メンバー各位1件のテーマ案を持ち寄る。

節電のテーマ、空気漏れとコンプレッサーエネルギーなど

・テーマに対し、それに携わる有識者に参加してもらいレクチャーを受けるなど会合の中身を濃くしていく。

② 勉強会等

工場見学、研究機関、関連施設などの視察などを企画していく。

・11月頃に新しい(地独)東京都立産業技術研究センターを見学し、表面解析、測定技術、めっきなどを予定する。

③ 塗装講師派遣について

日本工業塗装協同組合連合会技術顧問 坂井氏より茨城県中小企業振興公社からの派遣依頼について、当会のスタディーに用いることの提案がされた。CEMA メンバーは会社社員よりコンサルタントなどの業務は無理であるため、坂井氏や工塗連側で人選された方において進めていくこととした。

4. 次回予定

第35回 環境技術分科会

2011年8月19日(金) 13時 ~ 16時 ザ・リバープレイス・イーストタワー1階集会室

住所:東京都大田区下丸子4-21-14

<予定議題>

① テーマ検討 :各自1テーマ案を持ち寄る、工塗連理事会からのテーマ案協議

② サポイン21部会 :進展と今後の対応

————— 以 上 —————